

(お知らせ)

令和4年10月3日  
防 衛 省

### フィリピンへの警戒管制レーダーの移転について

防衛省は、2014年4月に防衛装備移転三原則が策定されたことを受け、防衛装備品の移転に向けて取り組んでまいりました。

このような中で、2020年にフィリピン国防省と三菱電機(株)の間で同社製警戒管制レーダー・4基を約1億ドルで納入する契約が成立しておりましたが、今般、当該契約に基づく1基目のレーダーの国内での製造が完了し、フィリピン空軍の立ち合いの下、輸出前検査が実施されました。今後、本基をフィリピンに向け移転してまいります。

また、本移転事業に伴い、10月4日から、航空自衛隊においてフィリピン空軍の要員を教育課程に受け入れ、レーダーに関する教育を実施いたします。

我が国にとってフィリピンは、共通の理念と目標を有する戦略的パートナーであり、フィリピンとの防衛装備協力を推進することは、我が国及び地域の平和と安定の確保においても重要です。引き続き両国間での連携を強化してまいります。

以上

## 1 契約の概要

- 契約当事者  
フィリピン側：フィリピン国防省  
日 本 側：三菱電機株
- 契約金額  
約1億ドル
- 契約内容
  - ①納入物：レーダー・4基(固定式・3基、移動式・1基)等
  - ②契約成立日：2020年8月25日
- レーダーの概要  
フィリピン空軍の要求に基づき、航空自衛隊固定式警戒管制レーダー装置（J/FPS-3）及び陸上自衛隊対空レーダー装置（JTPS-P14）を開発・製造した経験を踏まえ、三菱電機において新たに開発・製造するもの



※ 写真は、自衛隊のレーダーであり、今回移転することとなるレーダーとは異なる。

## 2 フィリピンとの装備協力の実績

- TC-90 の 移 転：機体5機を引渡し済（～2018年3月）
- UH-1H 部品の移転：部品約4万点を引渡し済（～2019年9月）